

明治中期の野尻河岸における積み荷記録「萬積帳」

仙頭 達朗

I はじめに

本稿は、明治中期における利根川水運や、それに関わる人々の生活を検討する貴重な資料として千葉県銚子市野尻（第1図）の滑川家に残る「萬積帳」に注目し、その内容を紹介することを目的とする。

野尻は、近世には利根川水運の重要な河岸として存在しており¹⁾、滑川家は周辺の村々からの年貢米江戸回送を請け負う特権的な地位を持った河岸問屋のひとつであった。近代以降の利根川水運については川名登が、特権的な河岸問屋の基盤となっていた幕府権力が崩壊しても、明治初期において河岸問屋は存続し、河川水運の重要性も低下することはなかったと述べている²⁾。

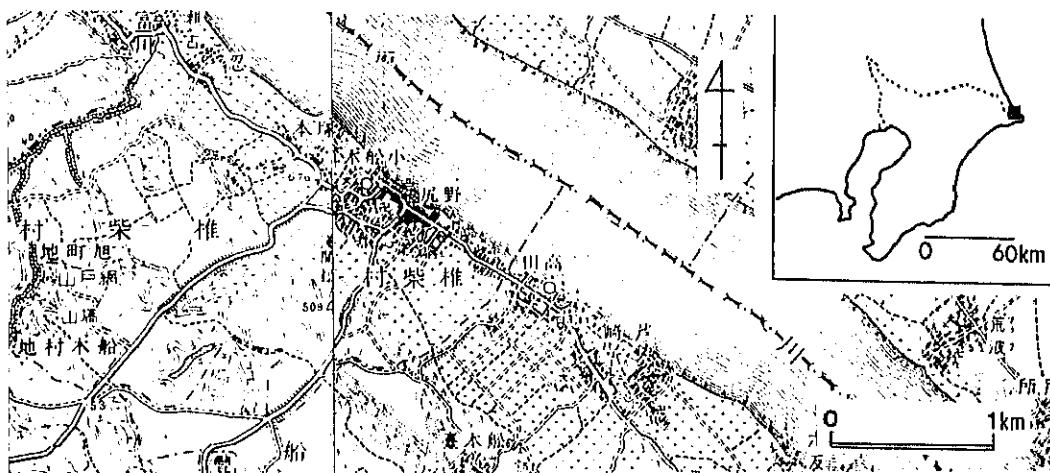
明治中期は、近世における利根川水運の在り方を継承しつつも、蒸気船の就航³⁾・利根運河の開削・鉄道の導入など、利根川水運を取り巻く環境

が大きく変わり始める時期である。「萬積帳」はこの時期の利根川水運と、特権的地位を失いながらも輸送業を存続させていた滑川家の、より具体的なあり方を示す史料となる。

また、積み荷として出荷される商品を克明に記録した史料は、河川水運に直接関わらない人々の生活をも、様々な産業との関わりから描き出すまでの貴重な情報を含む。そういう意味でも、「萬積帳」を翻刻・刊行することの意義に言及できればと考えている。

II 「萬積帳」の概要

本稿で検討する史料「萬積帳」は、滑川家が行っていた荷物輸送における積み荷記録である。輸送される個々の荷物に添えられる「送り状」には、荷主・荷の内容・送り先が記されている。これを積み込む船ごとに日付・船頭とともに後にま



第1図 対象地域

5万分の1地形図「八日市場」・「銚子」(明治36年測図)に加筆

とめて書き写して綴じた帳簿が「萬積帳」である。滑川家に現存するものとしては、明治6~11年（1873~78）の間の記録を1冊に綴じたもの、明治21年（1888）5月から明治23年（1890）7月までのもの1冊の合わせて2冊が存在する。そのうち、今回内容の検討を試みた明治21年（1888）から記録の始まる592丁に及ぶ史料の形式は、基本的には、積み込む船の船頭の名と発送する日付が先頭に記載され、荷の内容と運賃、荷主、送り先が居住地とともに記されている（写真1）。荷物の記載箇所には、それぞれの「送り状」と合わせて押印したと推察される割印がある。また、醤油・魚肥などの荷物の場合には商標が記され、または屋号を示すと考えられる省略記号が記されていることがある。その他には、滑川家が一時荷物を保管した場合の手数料である「蔵敷」や、河川水位が低下した時期の割増運賃である「干川増し」、さらに荷の積み込みに人足を必要とした場合にはその経費も記されている。

記載された個々の荷物については後述するが、その多くは醤油・肥料・米・雑穀・海産物など、銚子やその周辺の村々で生産された商品であり、東京および関東各地に送られている。東京に送られた荷物がさらに遠方の消費地へと送られる場合、途中何度か船を積み替え、あるいは荷揚げして陸送することになる。最終消費地までの経由地や荷物を請け負う問屋などが記録されていることは比較的少なく、ほとんどの場合東京の各問屋までの行き先しか記録されていない。

しかしこの滑川家の積み荷記録は、同時期の利

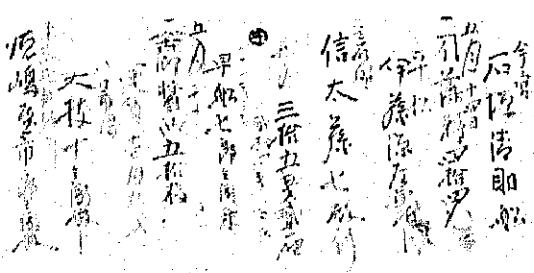


写真1 「萬積帳」（部分）

根川を利用した商品流通の一端を具体的に示すとともに、近世における利根川水運で河岸問屋として重要な役割を果たした滑川家が、近代に入って利根川水運を取り巻く状況が変化するなかでどのようにその機能を変化させつつあったかを示す貴重な史料である。

一方、「萬積帳」を分析する上でいくらかの注意点が指摘できる。まず、積み荷記録には滑川家によって船から荷揚げされた荷物については記録されていないため、利根川水運によって銚子地域に流入する物資については知ることができない。つまり、この史料では利根川水運における「上り荷」・「帰り荷」のうち、銚子地域から送り出される上り荷しか記録されていない。次に、荷物の取り扱い上の特徴として、箱に入った荷や筵で包まれた荷物を示す「箱入」・「筵包」等の記述のように、その荷の内容が明らかでない部分もある。さらに、品名が記載されていても、それが示す内容がどのような品目であるのか判然としない部分もあり、慎重な検討が必要となる。

この膨大な積み荷記録は同時期の利根川を利用した物資輸送において、どのような荷物がどの地域から出荷され、どの地域に送られていたのかという状況を具体的に示す記録である。水運に関する直接的な史料でありながら、そこに記された内容は、同時期の銚子地域で行われていた様々な産業に関わる多様な荷物が記録されている。そのため、ある程度の史料的限界をふまえたとしても、「萬積帳」は水運史研究の分野にとどまらず、様々な分野において貴重な情報を提供する史料である。

III 「萬積帳」の記載内容

ここでは、「萬積帳」の一部を取り上げ、当史料の具体的内容をみてみたい。本稿では特に、史料に記載された内容のうち、積み荷・荷主・送り先に注目してみたい。明治21年（1888）5月～12月の247丁分を、荷主と送り先ごとにまとめられた複数の荷物を1項目として日付順・船主ごとに

まとめたのが第1表である。以下、「萬積帳」の内容を積み荷と送り先に注目してみていただきたい。

1) 積み荷

a. 醤油

明治21年（1888）に滑川家が請け負った荷物の中で最も件数が多いものが醤油である。計642項目のうち醤油荷は134項目を数え、依頼主として9名の氏名が確認できる。居住地の判明するところでは八日市場・泉川・網戸・横根・籠部田・三川となっている。依頼主の全てについてその身元を確定することは難しいが、八日市場の大枝十兵衛、三川の石毛四郎右衛門、飯岡の近藤平左衛門は、銚子醤油醸造組合に加盟している醸造家⁴⁾である。手船など自らの流通基盤を持たない中小の醸造家が滑川家に醤油の輸送を依頼していたと考えられる⁵⁾。これらの醸造家から出荷された醤油は野尻の滑川家で船に積み込まれ、ほぼ全てが東京方面の問屋に送られている。

b. 農産物

野尻周辺の村々で生産され、東京方面の問屋に送られる農産物もまた、史料に記載される品目のなかで大きな位置をしめている。米・雑穀といった食料品が最も多く、米・雑穀を合計すると醤油を上回り、190項目に上る。雑穀は豆類を中心であるが、なかで最も頻繁に登場するものは隱元（インゲン豆）である。インゲン豆は米・雑穀の荷のなかで120項目に含まれ、米の42項目より遙かに多い。しかし、当時の同地域で生産されたインゲン豆が他地域に大量に出荷されていることは、生産・需要の両面から疑問が残る⁶⁾。この他に目立つものとして落花生が挙げられる。落花生は明治始めに導入され、この時期には海上・匝瑳郡の特産物となっていた⁷⁾。

米・雑穀のほか、数は少ないが甘藷・蜜柑・鶏卵も記録されている。また、菜種・藍といった特用農産物も見られる。菜種は菜種油や種粕に、藍は藍玉に加工された後のものが多い。加工品としては他に片栗粉・小糠・麸・味噌・茶・煙草などいずれも件数は少ないと出荷されていることがわ

かる。

農産物の荷主は、海上郡・匝瑳郡・香取郡などの村々であり、これらの村々で生産された商品が野尻で船に積まれ出荷される流通のあり方は、近世中期から幕末期の状況⁸⁾を引き継いでいる。送り先についてはほとんどが東京の問屋に送られているが、藍葉・藍玉については東京以外の地域へ輸送されている場合もある。

c. 海産物

銚子で漁獲あるいは採取される海産物のうち、滑川家が請け負った荷物では魚肥や魚油、食料品としては田作・鮫が出荷されている。それらのなかで最も多いものは魚肥であり、特にメ粕がそのほとんどを占めて47項目に上る。滑川家では銚子で水揚げされた鮮魚は扱っていなかつたらしく、史料には取り扱った記録はみられない。その他に鮫皮・貝・海藻粉・砂鉄⁹⁾といった品目も挙げられている。

d. その他

上記の、醤油・農産物・海産物は滑川家が扱った主要な荷物であるが、それ以外の荷物には、林産物として、材木、それらの加工品である炭・桶・蠟燭・タンスなどの品名も記録されている。また、工芸製品としては他に、縞¹⁰⁾・籠・縄・筵・簾・マッチ・香が生産・出荷されている。さらに、古銅・古錦といった品物が一括して送られる例があり、資源を回収する業者が存在したことがうかがえる。

以上のように、「萬積帳」に記録された荷物の内容を詳しく見てきた。その結果、銚子地域で生産される多様な商品の存在を確認することができた。

2) 送り先

次に銚子とその周辺地域から出荷され、野尻の滑川家によって輸送された荷物がどのような地域に送られたのかについて触れてみたい。

明治21年（1888）に滑川家が扱った荷物の送り先は、宮城県仙台まで輸送された「みかん」1項目を除く全てが、東京あるいはその他の関東各地

に送られている（第2図）。なかでも東京行きの荷物が圧倒的に多く、表に整理した642項目のうち、497項目の荷物が東京行きとなっている。東京へ送られた商品は問屋で一端集荷され、再び関東各地やさらに遠方の消費地へ出荷されたと考えられる。しかし、東京の問屋から具体的にどの地域に送られたのかは「萬積帳」だけでは一切不明である。

東京以外の関東各地の送り先を見てみると、ほぼ全てが主要な河川・湖沼と東京湾に沿って分布することが分かる。このような分布は、水運を利用した商品流通においては当然予想されることである。そこで送り先の分布に注目して、「萬積帳」に記された具体的な流通のあり方を見ておきたい。

まず、利根川水系の各河川流域では、今泉の椎名弥平、木戸の鈴木弁造から、メ粕が霞ヶ浦を経由して土浦へ輸送された記載がある。また、井戸野の椎名重蔵から、落花生が霞ヶ浦北部の小川や北浦北部の鉢田を経由して水戸へ輸送されている。

次に、利根川中流域では、磯部村（現、成田市）へ向けて荒野の大木半兵衛から送られた藍玉が、西大須賀（現、香取郡下総町）で字新川回漕店によって荷揚げされて輸送されている。また、近藤平左衛門から関宿の問屋である小嶋忠左衛門・染谷徳左衛門¹¹⁾の元へメ粕が輸送されている。この関宿へのメ粕輸送は、銚子地域から東京以外の地域へ輸送される例では最も多く、14項目に上っている。

利根川上流・支流域では、鬼怒川の河岸である長塚（現、下妻市）へ高田の高橋由兵衛から種粕が輸送された記事があるほか、佐野の仲屋利兵衛宛てに荒野の高木五郎左衛門からの傘柄が、渡良瀬川の支流を溯って輸送された記録が4項目ある。

利根川水系以外の河川流域では、荒川沿いの地域へメ粕が輸送された場合には、まず東京の回漕店または問屋に輸送され、そこで積み替えられて荒川を溯り最終的な送り先へ輸送されている。志

木へは、今泉の椎名弥平、平木の鶴殿辰之助からメ粕・干鰯が輸送された記録が5項目確認できる。また、同じく今泉の椎名弥平から日本橋蛎殻町の滑川支店や嶋屋仁兵衛を経由し、川越新河岸の河内屋平六によって荷揚げされ川越北町の麻屋利右衛門、川越の井筒屋藤助・輪屋源吉へメ粕や干鰯を輸送されたとの記載が10項目ある。さらに、同じく今泉の椎名弥平から、滑川支店や志木の高須回漕店を経由したメ粕が所沢へ輸送されたことが分かる。

このほか、東京湾沿岸の地域では、野尻から滑川支店を経由し、木更津此花町で荷揚げされ貢元村（現、君津市）へ藍玉が輸送されている。

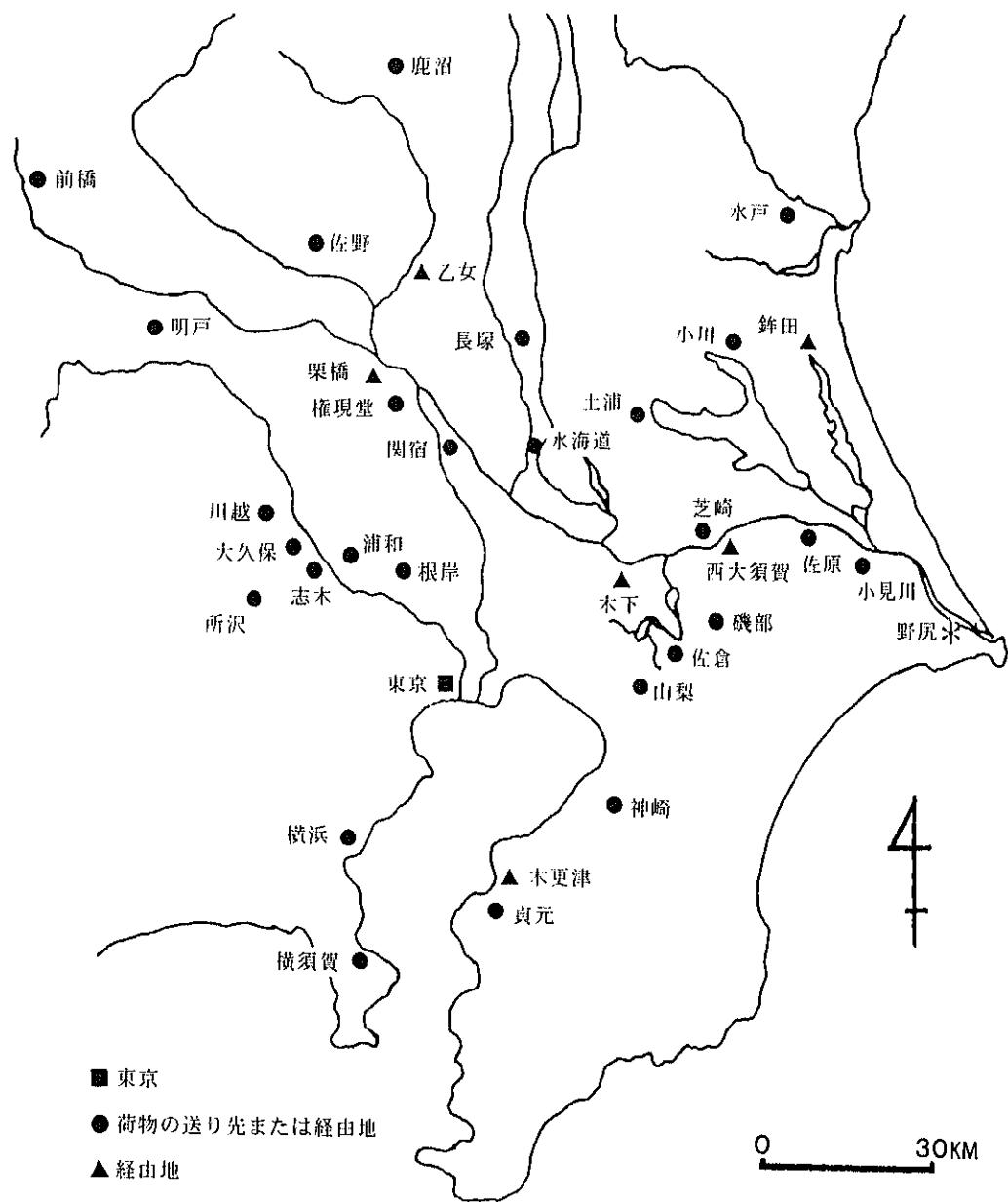
以上のように、滑川家が請け負って関東各地へ輸送される荷物は、霞ヶ浦・北浦を利用したルートと利根川下流域から上・支流域へ溯って輸送されるルート、そして境から江戸川を下って東京へ輸送され、そこから隅田川から荒川へと溯るルートと東京湾を通航して沿岸の港で陸揚げされるルートが確認できた。

東京の問屋に一度集荷されるのではなく、東京を通過または経由せずに関東各地に輸送される流通のあり方は、生産地と消費地の直接の結びつきを示している。生産地から消費地へ輸送される商品は、荷物の量そのものが少ないとあって種類が少ない。それでもやはり、農村部で特に需要の高いメ粕・種粕などの肥料が多いことが指摘できる。

IV 結びにかえて

本稿では、「萬積帳」を荷物・荷主・送り先に注目して紹介した。その結果、利根川水運を介して流通する多様な商品の存在が明らかになった。また、予想されたこととはいえ、銚子地域から出荷される商品の具体的な流通ルートや、魚肥などの特定の商品については生産地と消費地の直接的な結びつきも見られた。

一方で、史料の記載がどのような事実を示しているのか判然としない部分があった。また、滑川



第2図 滑川家の請け負い荷物の送り先
(「萬積帳」(滑川家文書)より作成)
注) 場所の比定できるものに限った。

家が請け負った荷物を実際に輸送する船頭と滑川家、あるいは滑川家と荷主との請負関係における具体的な取り決めや運賃体系、史料に現れる各地の商人の動向、荷物の内容や河川通行時における季節的な状況の変化などに触れることが出来なかった。この時期の利根川水運の実態を捉えることを目的とする際には今後これらの分析が不可欠である。同じように、他地域から野尻を通しての銚子地域への物資の流入についても検討が必要であろう。以上のように「萬積帳」を利用するに当たって解決しなければならない課題は依然として多い。

明治中期の利根川水運のあり方を検討し、それによって関東各地あるいはさらに大きな市場と結びつけられた銚子地域およびそこで暮らす人々の生活のあり方を考えるために、この史料の一部分の分析だけではなく、全編に渡って分析を試みる必要がある。また「萬積帳」の全文を翻刻・刊行することができれば、より広い視野で検討を加えることが可能となり、その史料の利用価値もさらに高まると考えられる。

付 記

本報告の作成にあたり、銚子市公正図書館、銚子市青少年文化会館の皆様には資料の閲覧・複写にあたって便宜を図っていただきました。現地・史料調査にあたっては、銚子市野尻の滑川藤彌氏・滑川延子さん、ご家族の皆様には貴重な史料の閲覧・撮影を許可していただきとともに、多大なご教示とご協力をいただきました。また、野尻の安井小七氏、ご家族の皆様はじめ、野尻在住のたくさんの方々から多くのご教示を賜りました。平成13年度の歴史地理学実習においては、筑波大学人文学類の森田浩司、山田智之の両氏にご協力いただきました。筑波大学歴史・人類学系文

部技官の山澤学氏には資料・文献に関してご助言をいただきました。記して厚くお礼申し上げます。

注および参考文献

- 1) 近世の利根川水運とその中の河岸の機能および滑川家の動向については、川名登（1982）：『河岸に生きる人々—利根川水運の社会史—』、平凡社、がある。
- 2) 前掲1), 301ページ。
- 3) 汽船荷客取扱人連合会編（1910）：『利根川汽船航路案内』、汽船荷客取扱人連合会編、11～20、によれば、現在の日本通運株式会社の前身である内国通運会社は明治10年（1877）以降、境・銚子間に蒸気船を就航させ、銚子汽船会社も明治15年（1882）に開業した。また、前掲1), 303～304、によれば、滑川家は明治8年（1875）以降、内国通運会社の分社となるとしているが、実態がどうであったかについては明らかでない。
- 4) 銚子市史編纂委員会編・発行（1956）：『銚子市史』、601ページ。
- 5) 例えば、ヒゲタ醤油などの大手醸造会社は手船を所有し、自ら醤油の流通まで行っていた。
- 6) 千葉県海上郡教育会編・発行（1917）：『千葉県海上郡誌』、358～397、によると、この時期にインゲン豆を生産していたという統計資料はみられない。
- 7) 前掲6), 384ページ。
- 8) 渡辺康代（2000）：野尻・小船木集落の景観及び機能的特徴—近世における河岸を中心として—、歴史地理学調査報告、9, 33～51。
- 9) 前掲6), 437ページ、によれば外川から大若に至る海浜一帯で採掘されていた。
- 10) 前掲4), 619～620、によれば、銚子縮は近世から明治中期にかけて全国に知られた名産品であった。
- 11) 奥原謹爾（1873）：『関宿志』、関宿町教育委員会、によると、小嶋忠左右衛門と染谷徳左衛門はいずれも海産物を扱い輸送業も行う「大間屋四軒」と呼ばれる積み荷問屋であったという。

第1表 明治21年（1888）滑川家の積み荷記録

		ノ柏 牟豆 そりつゝの又 醤油 豆 焚昔 味噌・小豆 材木 頭附 空き瓶 包	今泉 成田 芦戸野 荒野 八日市場 芦戸野 焚昔 味噌・小豆 材木 頭附 空き瓶 包	椎名弥平 椎崎幸七 椎名佐七 庄屋政吉 大坂十兵衛 椎名佐七 加納屋忠兵衛 秋園 鍋木 長谷 荒野 大坂屋宇兵衛 伊勢屋惣吉 益屋嘉右衛門 ならし 成田	日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋戸物町 日本橋高砂町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋本石町 日本橋本材木町 本所菊川町 本江区 日本橋区杉之森 土浦 常州土浦真鍋 常州土浦	滑川支店 駒木屋三郎 伊勢屋六右衛門 山崎利三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 仲善兵衛 寺本四郎兵衛 堺屋七五郎 伊藤介治郎 松尾寅之助 伊勢屋忠平 堺田宏藏上げ 伊藤弥介 堺田安造
6/5	石毛寅松	ノ柏 米 米 ノ柏 砂利・藻粉 浜豆	木戸 芦戸野 芦戸野 今泉 秋園 成田	椎名佐七 椎名佐七 椎名弥平 向後新兵衛 金星嘉右衛門 小島吉藏 椎名弥作	常州土浦 飯貝根 荒野 新川 日本橋蛎殻町 日本橋本船町 浅草区上野 前橋	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/5	床枝寅松	ノ柏 米 米 ノ柏 砂利・藻粉 浜豆	八日市場 荒野 松原 荒野 八日市場	坂本寅吉 向居休造 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	浅草山原町 浅草吉野町 岩倉郡仲之郷元町 神田錦町 京橋区南新堀 京橋区南新堀 日本橋伊勢町 日本橋伊勢町 日本橋蛎殻町 日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋欽曉町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋惠曉町 深川東六間堀 横浜舞町 開宿	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/6	石毛寅六寅松	ノ柏 米 米 ノ柏 砂利・藻粉 浜豆	松原 荒野 八日市場 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	坂本寅吉 向居休造 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	浅草山原町 浅草吉野町 岩倉郡仲之郷元町 神田錦町 京橋区南新堀 京橋区南新堀 日本橋伊勢町 日本橋伊勢町 日本橋蛎殻町 日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋欽曉町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋惠曉町 深川東六間堀 横浜舞町 開宿	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/8	石毛寅六寅松	ノ柏 米 米 ノ柏 砂利・藻粉 浜豆	八日市場 荒野 松原 荒野 八日市場	坂本寅吉 向居休造 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	浅草山原町 浅草吉野町 岩倉郡仲之郷元町 神田錦町 京橋区南新堀 京橋区南新堀 日本橋伊勢町 日本橋伊勢町 日本橋蛎殻町 日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋欽曉町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋惠曉町 深川東六間堀 横浜舞町 開宿	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/17	小船本	米蔵	八日市場 荒野 松原 荒野 八日市場 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	坂本寅吉 向居休造 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	浅草山原町 浅草吉野町 岩倉郡仲之郷元町 神田錦町 京橋区南新堀 京橋区南新堀 日本橋伊勢町 日本橋伊勢町 日本橋蛎殻町 日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋欽曉町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋惠曉町 深川東六間堀 横浜舞町 開宿	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/19	宮内彦七	ノ柏 包・アンペラ 米 石油缶・ぼろ 醤油 醤油 源氏香 鰯油 袋木綿 鰯油 米・豆 小箱 酒 包	八日市場 荒野 松原 荒野 八日市場 横銀	坂本寅吉 向居休造 小林小三郎 吉田為治郎 大坂十兵衛 近藤平左衛門 大坂十兵衛 湯川金治郎 近藤平左衛門 西村商店 江波戸久兵衛 宮内龟太郎 近藤平左衛門	浅草山原町 浅草吉野町 岩倉郡仲之郷元町 神田錦町 京橋区南新堀 京橋区南新堀 日本橋伊勢町 日本橋伊勢町 日本橋蛎殻町 日本橋蛎殻町 日本橋小網町 日本橋欽曉町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋惠曉町 深川東六間堀 横浜舞町 開宿	堺田安造 与四郎 中野屋庄三郎 宇佐見 滑川支店 片瀬屋定吉 鉄道会社 下妻屋左弥 尾張屋文吉 荒削英 藤崎千代 鍵屋藤助 森六郎 岩崎重治郎 中条源兵衛 半田屋治兵衛 東京醤油会社 東京醤油会社 濱口吉右衛門 遠州屋卯三郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 伊能喜一郎 澤田佐平治 菊地忠太郎 小島忠左衛門 堺田安造
6/19	宮内京助	ノ柏	今泉	椎名弥平	開宿	宮城喜三郎
6/20	七郎兵衛(早船)	ノ柏	今泉	椎名弥平	常州土浦	柴谷徳左衛門
6/23	高田	三吉	今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	堀川文造
6/28	小船本	平治兵衛	今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	滑川支店
6/29		市郎左衛門(早船)	今泉	椎名弥平	川越新河岸	鍋屋仁兵衛
			今泉	椎名弥平	川越	河内屋平六
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	井筒屋藤助
			今泉	椎名弥平	川越新河岸	鍋屋仁兵衛
			今泉	椎名弥平	川越北町	河内屋平六
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	麻屋利右衛門
			今泉	椎名弥平	川越新河岸	鍋屋仁兵衛
			今泉	椎名弥平	川越北町	河内屋平六
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	麻屋利右衛門
			今泉	椎名弥平	川越新河岸	滑川支店
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	河内屋平六
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	滑川支店
			今泉	椎名弥平	志木	鍋須同禮店
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	滑川支店
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	高須源太郎
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	三上健治郎
			今泉	椎名弥平	日本橋蛎殻町	高須源太郎
			今泉	椎名弥平	志木	三上文吉
			明	銘子	日本橋蛎殻町	中田屋又兵衛
			蒸氣缶・蒸氣器械	岡本兵一郎	日本橋蛎殻町	向山小平治
			箱・ビン・ぼろ	田坂角治郎	所沢	田辺茂兵衛
			洋酒入・蘭 煙草・マッチ 小豆・鰯丸 煙草 味噌 小豆・鰯フタ 桔梗 魚油	荒野 横銀 小南 横銀 小南 荒野	吉田為治郎 大坂屋宇兵衛 三川屋金治郎 鈴木松之助 三川屋金治郎 松下平助 鈴木松之助 大坂屋宇兵衛 加納屋佐吉	前田容一 鍵屋藤助 豊浦松造 半田屋治兵衛 大坂屋茂八 大文字屋庄六 手品屋仙太郎 越後屋清藏 林太右衛門 岩士惣兵衛 小島忠左衛門
6/29	高田	治平	ノ柏	近藤平左衛門	開宿	

		藍玉 醤油 片栗粉・鰯元・ 小豆 みかん箱 糯米・白米 米・糯米 糯米・小角豆 味噌 藍葉 モモ包 田作 落花生 落花生	野手 太田新田 八日市場 大技十兵衛 加瀬孝兵衛 太田新田 太田新田 伊藤助左衛門 太田新田 太田新田 下永井 新生 荒野 井戸野 東下 井戸野 井戸野 井戸野	上屋武左衛門 鈴木八郎左衛門 大技十兵衛 加瀬孝兵衛 青柳巣右衛門 吉田芳太郎 伊藤助左衛門 鈴木八郎左衛門 下永井 新生 荒野 井戸野 井戸野 井戸野 井戸野 井戸野	日本橋姫姫船町 日本橋小船町 日本橋西河岸 日本橋人形町 日本橋長谷川町 日本橋本船町 日本橋本船町 日本橋本船町 日本橋本船町 日本橋本船町 深川當山町 深川西大工町 三浦郡横須賀 神田錦倉町 日本橋本船町 常州鍊田河岸 水戸下市 安西町河岸 北羽島村 浅草向柳原 神田錦倉町 神田錦倉町 京橋区豊岸島 芝区本芝 芝南佐久間町 日本橋姫姫船町 木更津此花 高柳村 日本橋姫姫船町 日本橋鬼井町 日本橋北新堀町 江波戸久兵衛 小鳩吉藏 宮内鬼太郎 加瀬孝兵衛 浅口平衛門 新生 網戸 矢田部	滑川支店 常沢倉治郎 国分勘兵衛 加賀屋勘蔵 石原繁三郎 竹内七兵衛 伊勢屋真造 高橋慶三郎 小松崎卯之助 鶴子屋重吉 宮崎清治郎 坂見屋善助 近江屋惣助 鬼米半右衛門 金子留吉 小川庄平 山岡永助 江崎喜兵衛 宇田川幸兵衛 坂見屋善助 坂見屋善助 鳩屋忠左衛門 近藤堅吉 山本林造 滑川支店 小泉八十郎 花澤千代吉 滑川支店 尾張屋恵治郎 弛島屋市郎兵衛 濱口吉右衛門 高井又吉 加賀屋勘蔵 加賀屋勘蔵 寅屋宗右衛門 鶴子屋重吉 給木忠右衛門 前野富司 網中總兵衛支配 小鳩忠左衛門 網中總兵衛支配 柴谷徳左衛門 森友徳兵衛 篠喜助 篠喜助 大黒屋富藏 岡田源吉 岡田源吉 岡田源吉 岡田源吉 岡田源吉 岡田源吉 岡田源吉 近藤堅吉 半田量治兵衛 中条瀬兵衛 半田屋治兵衛 濱口吉右衛門 松田六右衛門 園分勘兵衛 伊勢屋真造 坂田安藤 伊藤代三郎 健屋藤助 健屋藤助 健屋藤助 平田喜十郎 徳島屋市郎兵衛 鶴子屋重吉 鶴屋泰助 鈴木忠右衛門 岡田平左衛門 作右衛門
12/6	石毛寅吉					
12/6	森平					
12/6	仙台石巻	白石代壽	滑川善左衛門			
12/9						
12/13	石毛寅吉		藍玉	野手	土屋武左衛門	日本橋姫姫船町
			醤油 味噌 落花生・鰯元・ 小豆・白豆 小豆・鰯元・ 金時・米 種粕 藍油 糯米 藍玉	足洗	江崎栄助	日本橋長谷川町
			田作 白米・大豆 醤油 醤油 種水油・砂戸水油 田作 落花生 田作 藍玉 醤油 タンス・ふとん・ 手桶 メ柏	泉川	朴清左衛門	日本橋本船町
					山崎広吉	深川當山町
					神田錦倉町	神田錦倉町
					小鳩吉藏	京橋区豊岸島
					近藤平左衛門	芝区本芝
					遠藤太郎左衛門	芝南佐久間町
					江波戸作右衛門	日本橋姫姫船町
						木更津此花
						高柳村
						日本橋姫姫船町
						尾張屋恵治郎
						弛島屋市郎兵衛
						濱口吉右衛門
						高井又吉
						加賀屋勘蔵
						加賀屋勘蔵
						寅屋宗右衛門
						鶴子屋重吉
						給木忠右衛門
						前野富司
12/13	新川	岡田喜助			近藤平左衛門	網中總兵衛支配
					開宿	小鳩忠左衛門
						網中總兵衛支配
						柴谷徳左衛門
						森友徳兵衛
12/15	梅現堂	亀吉	鳥から 落花生 落花生	横根	溝川金治郎	篠喜助
12/17	垣根	藤助	小豆・茶豆	半田	高野文吉	高野文吉
12/18	銘子	千代松	種粕	永井	加瀬孝兵衛	加瀬孝兵衛
			水油	高田	土屋六郎兵衛	土屋六郎兵衛
					高橋山兵衛	高橋山兵衛
					高橋山兵衛	高橋山兵衛
					松本佐助	松本佐助
					山崎広吉	山崎広吉
					神田錦倉町	神田錦倉町
					椎名左吉	神田錦倉町
					神田錦倉町	神田錦倉町
					波内嘉兵衛	波内嘉兵衛
					近藤平左衛門	芝区本芝
					広尾六兵衛	日本橋伊勢町
					大技十兵衛	日本橋伊勢町
					溝川金治郎	日本橋伊勢町
					江波戸久兵衛	日本橋小網町
					椎名左吉	日本橋潮戸物町
					大技十兵衛	日本橋西河岸
					伊勢屋吉吉	日本橋本船町
					宮内鬼太郎	常州土浦
					釜屋嘉右衛門	常州土浦真鍋
					吉田為治郎	神田錦倉町
					吉田為治郎	神田錦倉町
					吉田為治郎	神田錦倉町
					山田五右衛門	日本橋伊勢町
					松戸藤兵衛	日本橋北新堀町
					飯田屋半三郎	深川西大工町
					伊藤幸七	本所松代町
12/20		庄吉(早船)	種粕 醤油 醤油 田作 醤油 醤油 醤油 醤油 醤油 醤油 石油箱 石油箱	東川 井戸野	成田	松戸藤兵衛
			落花生		成田	石毛彦太郎
12/20		滑川善左衛門			成田	南新川町
12/21		七郎兵衛(早船)	地引き網 ぼろ ぼろ 鮫皮 醤油 藍葉 醤油 醤油 醤油 醤油 落花生	網戸	新生	三川堀河岸
12/23		飯闇	伊兵衛	網戸 長谷		水海道河岸

					水海道	
12/26	小川	由兵衛 太吉(早船)	△柏	近藤平左衛門	近藤平左衛門	柳沢徳二郎 柄中總兵衛支配
12/28			△柏	近藤平左衛門	関宿	小鳴忠左衛門 柴谷徳左衛門
			ぼら・古銅 落花生・鶏元 包・古銅・紙屑・ 黒ビン 醤油 コモ包 種柏 藍玉	本田 井戸野 鶴子	浅草新平右衛門町 神田錦町 神田錦町	船野兵吉 坂見星曾助 鍵屋藤助
				横根	鶴川善兵衛 鐵定屋銀蔵	櫻原嘉助 小林政治郎
					京橋区五郎兵衛町 京橋区斐伊島東濱町	鳴尾忠左衛門 滑川支店
					江波戸作右衛門	木更津此花 小泉八十郎
					石毛四郎右衛門 材木星平兵衛	周准郡貞元村 日本橋大伝馬町
					富嶋店	日本橋小網町 日本橋新材木町
					石毛四郎右衛門	本所林町 南新川町
					松戸藤兵衛	角谷藤吉 鈴木忠右衛門
					岩井菊藏	岩井菊藏 銚子屋重吉船主
12/29	今宮	藤藏 一郎丑松	落花生 落花生	東條本 松岸 井戸野 本城 八日市場	太胡藤兵衛 島田惣左衛門 椎名左七 大岩福太郎 大枝十兵衛	鈴木寅吉 神田東糸屋町 神田多町 京橋区小伝馬町 大門通猿町
12/31			落花生 味噌・そば粉 田作 繩 醤油 板 醤油 繩	泉州 本城 本田 網戸 井戸野	西村貞吉 大岩福太郎 日本橋小網町 疊形清右衛門 宮内丸太郎 近藤平左衛門	日本橋伊勢町 日本橋区田所町 日本橋浪花町 日本橋人形町 深川佐賀町 深川佐賀町
			包 鶏元・小豆・金時 鶏の粉 米 醤油 箱		西村貞吉 大岩福太郎 日本橋小網町 疊形清右衛門 宮内丸太郎 近藤平左衛門	和泉屋勝吉 加賀屋勘助 久住五左衛門 久住五左衛門
			落花生 傘荷	荒野	鶴川善兵衛 眞行内新平 宮内五郎左衛門 高木五郎左衛門	深川仲大工町 本所若宮町
					堀江町 野川佐野	三國府千里 仲屋利兵衛
			鮫皮 茶・粉茶 繩 小豆 △柏	荒野 佐倉本町 松岸	山田五右衛門 岩井房吉 武右衛門 伊藤幸七	平田喜十郎 江市居宗治郎 茂木勇右衛門 鉄屋桑助
					近藤平左衛門	柄中總兵衛支配
12/31	高田	三吉	△柏		近藤平左衛門	小鳴忠左衛門 柄中總兵衛支配
					関宿	染谷徳左衛門

(「萬種帳」(滑川家文庫)より作成)

注: 1) 日付順に一部並べ替えた。

: 2) 地名、人名については史料中の記載から推定できるもののみ一部補った。

: 3) 送り先に「経由地」を並べて表示した。